

編

韋

いへん

編

愛知大学図書館報

Aichi University Library Communications

第**39**号 2012.12

「韋編」…文章を書いた竹や木の札を、なめし皮でとした上古の書物。



名古屋校舎



車道校舎

INDEX

- 図書館長からのご挨拶 …………… P2～3
- 名古屋図書館の紹介 …………… P4～5
- 教員から学生への推薦図書 …………… P6～7
- 図書館活用あれこれ …………… P8～9
- シリーズ学会紹介 …………… P10～11
- 図書館の利用状況 …………… P11～12

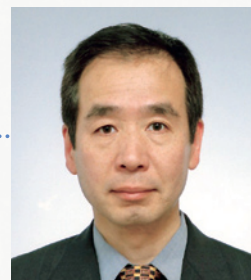


豊橋校舎

Message

新名古屋図書館のオープン

名古屋図書館長 土橋 喜



今年の3月下旬、みよし市にあった旧名古屋キャンパスの移転が完了し、4月からささしまライブ24地区に新名古屋キャンパスが開校した。ここに愛知大学は新たな歩みを始めることになり、同時に名古屋図書館も新しく生まれ変わった。

新しい名古屋図書館は厚生棟の1階から3階までの約4,650㎡を占有している。1階には図書館の受付カウンターがあり、そのほか新着コーナーとディスカッションルームおよび閲覧席がある。新着コーナーには新刊本や雑誌の最新号が並べられ、その場で手に取って閲覧することができる。2階東側には多数の辞書や参考図書が配置されており、学生の質問を受け付けるレファレンスコーナーがあり、蔵書検索用のパソコンも設置されている。

2階西側には中央に開架図書が配置され、北と南の窓側は閲覧席が整然と並んでおり、利用者は本をすぐ近くの閲覧席で見ることができる。3階は移動書架が設置され、雑誌コーナーとなっており、新聞や学術雑誌が移動書架の中に収納されている。名古屋図書館全体の座席は、ディスカッションルームを含めると、1階から3階まで約900席用意されている。館内の資料はすべて利用者が自分で手に取って見られるようになっている。

1階に3室あるディスカッションルームは、数人から30人程度のグループで、会話をしながら使えるように考えられている。間仕切りを収納して1室にすれば110人ほど収容できるので、教室や会議室のように使うこともできるので便利である。

ディスカッションルームは利用頻度が高く、予約制で利用していただいている。なかにはゼミの授業で毎週のように使われる先生もおられる。今年10月には私立大学図書館協会東海地区協議会の研究会がディスカッションルームで開催され、名古屋近辺の図書館関係者が多数来館された。

ところで図書館が作成している入館統計を見ると、2011年度の旧名古屋図書館の来館者数は一年間で317,505人であったが、今年4月から9月末日までの半年間の新名古屋図書館の来館者数は174,754人であるから、増加傾向にあることが分かる。これは図書館を利用する学部が2つ増え、在籍する学生数が旧名古屋図書館より増加していることによるものである。

また個人ブースやディスカッションルームは、やはり授業のない夏休みは利用が少なくなるが、これらは今年度からの新たなサービスであるので、次年度以降の利用統計と比較する以外にない。

図書館もやはり多くの利用者に来ていただかなければ、いろいろな資料を購入し立派な設備を備えている意味がない。図書館長として利用者がさらに増加するよう可能な限り貢献したい。

本は積まれて価値を増す

豊橋図書館長 山田 邦明



就職が決まってアパートを捜したとき、まず考えたのは、本の重みで床が抜けたりしない、丈夫なところを選ぼうということだった。東京の下町に格安の物件をみつけて引っ越したが、大家さんも運ばれた段ボールの量に驚いて、近所でも評判になった。食堂で前に座った人から、なんで本を捨てないのかと聞かれて、「商売道具なのではないんです」と答えたら、「商売道具っていう言い方、なかなかいいねえ」と言われた。

あれから30年、本はひたすら増え続けた。置き場がなくてたいへんだったが、愛大に赴任して個室の研究室をいただいたことでなんとか解決した。かなりの量の本が書棚に並べられて、基本的な仕事は研究室の中でできるようになったが、本に囲まれて仕事をしながらふと気づいた。本というのは、少しばかり並んでいてもたいした価値はないけれども、ある程度の「かさ」になると、俄然輝きを増すのではないか。研究者にとって本はものを調べるための「商売道具」で、必要なときに近くに存在することがとても大切なのだ。

愛大図書館の蔵書の多さにはほんとうに驚かされる。自分ももちろん利用させてもらっているが、学生たちがゼミの発表をしたり、卒論をまとめたりするとき、図書館に行けば関係する書物を手にできるというのによりありがたい。これだけの蔵書を集めてこられた方々の見識と努力にはほんとうに頭が下がる。

すぐそばに必要な本があることの意味ははかりしれない。予算やスペースの問題など、難しいこともあるだろうが、やはり本は多いほうが良いという原点を大切にしたいと思う。



Information

～名古屋図書館の紹介～

新名古屋キャンパスには、講義棟及び厚生棟の2棟があり、新図書館は厚生棟の1階から3階に位置している。新図書館の蔵書構成は、旧名古屋図書館から法・経営及び中国関係の資料を移転したうえで、豊橋図書館から経済・国際コミュニケーション関係の資料を移転した。延べ床面積は約4,650㎡、収蔵数能力は約36万冊、座席数900席の施設となっている。

新図書館は、①新キャンパスのシンボリック的存在、②図書館の学習支援機能を強化、③環境に配慮した設備、を目指した。その条件のもと、1階から3階までフロア毎にゾーニングを行った。



(写真) 1階スペース

図書館の1階は、一見カフェと見間違えるほど明るく開放的な空間となっていて、学生が入りやすく、賑わいのあるスペースとしての役割を持たせている。入館ゲート近くにある最新式の電動書架には、比較的学生が手に取りやすい言語関係や文学書、あるいは新書・文庫などを配架した。最新式の電動書架は、学生たちにとっては珍しいようで、新入生の女子学生からは「ハリーポッターの魔術」のような操作感があるとの感想をもらっている。またラーニング・commonsの要素を取り入れたディスカッションルームは常に学生たちが集う場となっている。木目調の台形机と赤い椅子、ローパーティションの機能をもったホワイトボードを自由自在に組み合わせることができ最適なグループ学習環境を提供している。さらに1階カウンターでは、ノートパソコンの貸出サービスを行っており、大変多くの学生が利用している。



(写真) 2階閲覧スペース

図書館2階には、参考図書・一般図書が配架されている。書架の間隔は非常に広く、車椅子が通っても余裕がある。そのため図書が手に取りやすいと、利用者には好評である。

図書館3階には、大学院生や研究者が主に利用する専門性の高い図書（洋書・中国書含む）・雑誌を配架した。各種学術雑誌は和雑誌だけでなく洋雑誌・中国雑誌が計約2000誌ある。また個人ブースを用意し、より集中して学習・研究をする用途に利用されている。さらに環境に配慮し、閲覧機や椅子を再利用していることや、一部の閲覧機でLED照明を使用している。

新図書館は、まだまだ発展段階である。利用者の皆さまのご意見を伺いながら、新しい大学図書館環境を提供していきたい。

(名古屋図書館事務課長)



(写真) 3階雑誌書架

名古屋図書館案内図

厚生棟 3F

3階は主に雑誌とコレクション・研究文献が設置してあるエリアです。

●愛知大学関係の資料

愛大の各機関（学会や研究所）などが発行する冊子はここにあります。

●個人ブース

(2階：6部屋・3階：5部屋)

一人で籠って勉強に集中したいときにぜひ利用してください。利用時間は図書館開館から閉館15分前までです。ただし、試験期間中など混雑するときは1回の利用時間を制限することがあります。

●教育関係の資料

教職課程を受講している学生が良く利用する資料はこのあたりにあります。

●経営・財政関係の資料

経営学部生がよく利用する経営や会計・財政に関する資料はこのあたりにあります。

厚生棟 2F

2階西側（2階入口入って右側エリア）は図書館のメインの開架室です。

●コレクション

貴重な本がここにありませう。多くは愛大に寄贈された文献です。

●中国書の資料

中国の文献が設置してあります。中国書の所蔵数は本学の自慢です。

●「名図研究」の資料・研究所の資料

主に先生方が利用される専門の資料が設置されています。(和・洋・中)

●辞書・参考図書 (和・洋・中)

2階東側（2階入口入って左側エリア）は辞書や参考図書が設置してあります。辞書や参考図書は禁帯資料（館外への持ち出しができない資料）ですが、当日だけに限り貸し出すことができます。

●2階閲覧カウンター

困った時はここで相談を。図書館の主だった手続き以外に個人ブースの手続きを行います。

●政治関係の資料

政治に関する資料はこのあたりにあります。

●法律関係の資料

法学部生がよく利用する法律関係の資料はこのあたりにあります。

●経済関係の資料

経済学部生や経営学部生がよく利用する経済に関する資料はこのあたりにあります。

厚生棟 1F

キャンパスモールからCaféのように見える図書館1階です。

●1階閲覧カウンター

通常の本の貸出・返却の手続きのほか、ディスカッションルームの予約、パソコンの貸出手続きを行います。

●ディスカッションルーム

通常、図書館の開架室では静かに読書や学習をする場所ですが、このエリアはガラス壁で仕切られており、防音効果がありますので、ゼミのクラスメイトやサークル活動等で議論することができます。可動式のホワイトボードも設置しています。3室あり、2室は常時開放していますが、1室は予約制となっています。蓋付きの飲み物のみ持ち込み可能ですが、それ以外の飲食は禁止です。

●文庫本

配架場所が「文庫」のものはここに設置してあります。国際コミュニケーション学部生がよく利用する「PENGUIN READERS」などの洋書の文庫もここにありますよ。

●情報関係の資料

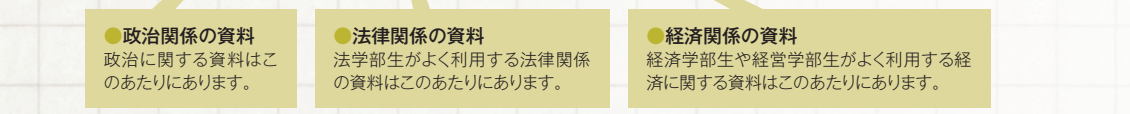
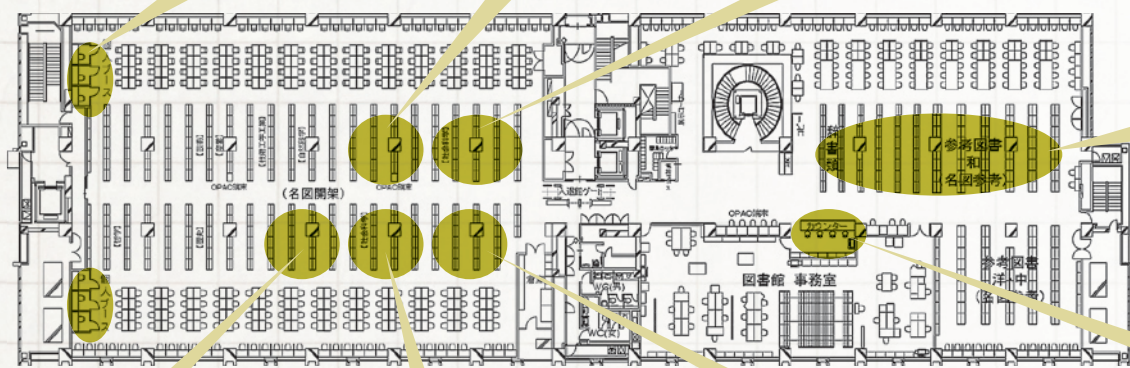
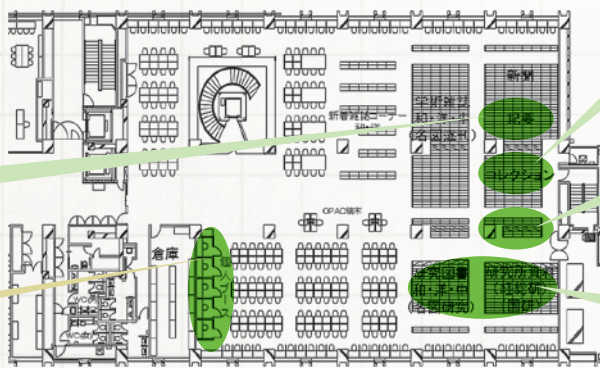
利用の多い情報関係の資料はここにあります。

●文学・語学関係の資料

請求記号800・900番台の資料が設置してあります。

●データベース 閲覧コーナー

開架室に設置してあるパソコンは、本学図書館所蔵の文献を検索することしかできません。(外部のネットワークには接続できません。)しかし、このコーナーのパソコンは外部のホームページやデータベースを検索することができます。情報メディアセンターのパソコンと同じユーザーIDとパスワードでログインし利用します。





『外交官の一生』(改版)

石射 猪太郎 著
(中公文庫) 2007

石射猪太郎(いしい・いたろう、1887-1954)は、戦前、日中戦争を解決するために、当時横暴を極めていた軍部に臆することなく、国際協調外交の立場から正論を説いた、気骨の外交官である。不幸にして、石射は軍部との戦いに敗れ、外務省内部の主流からも外され、閑職に追いやられてしまう。以後の日本は破局の一途をたどっていくことになる。敗戦後、引退した彼が往時を回顧して著したものが、『外交官の一生』である。逆境にめげず、理念を貫くとはどういうことであるかが、ひひしと伝わってくる。失意のうちにつぶられているが、将来の正統外交への希望も伝わってくる。なお、石射は、愛知大学の前身となった東亜同文書院大学第五期の出身者である。



名図開架 319.1:175
豊図開架 319.1:175



大川 四郎
法学部

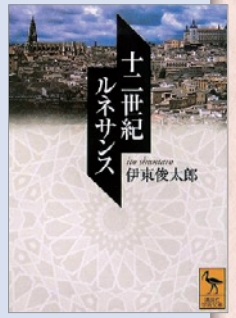


『十二世紀ルネサンス』

伊東 俊太郎 著 (講談社学術文庫) 2006

十二世紀ルネサンスという言葉は、1927年にアメリカのチャールズ・ハスキンスが *The Renaissance of the Twelfth Century* を世に送って以来、一般に馴染む名称として次第に定着するようになった。

現代文明を考える場合、アラビア文明を等閑に附すことなど到底できない。ギリシアの学術は八世紀半ばから九世紀にかけて、バグダードを中心にしてそのシリア語訳やギリシア語原典からアラビア語に翻訳された。それによりアラビア文明は中世の時代に最も尖端的な文化の栄華を極めるに至る。このアラビア学術とアラビア語訳のギリシア学術、及びギリシア学術原典は十二世紀に、トレド、カタロニア、バレルモを中心とするシチリア、北イタリアでラテン語に大々的に翻訳され、現代文明の礎を築くことになった。本書はギリシア学術の移転の経緯とアラビア文明のヨーロッパへの深甚な影響を開示してくれる。



名図文庫 230.4:189
豊図文庫 230.4:189
(外) 車図開架
080:Ko19:1780

伊藤 勳
経済学部

教員から学生



『価格破壊』

城山 三郎 著 (角川文庫) 1998

これぞ流通エンターテインメント小説!

スーパーマーケット社長の矢口は、業の安売りを実現するために、あの手この手を繰り出す。それに対して、業メーカーは、矢口に業の安売りをさせまいと様々な圧力をかける。矢口と、業メーカーの戦い(とりわけメーカーの矢口へのえげつない嫌ながらせ)が生々しく描かれる。この戦いのモデルは、今から40年前のダイエーと松下電器の戦いとも言われている。

この小説は経営学部の学生はもちろん、他の学部の学生諸君にも是非読んでほしい。1つの商品が作られ、それが我々の手元に届くまでには様々な人の手を経る。そこには、様々な人たちの思惑が絡み合う。経済はきわめて人間的な営みであることが分かる一冊である。



名図開架 913.6:Sh89

太田 幸治
経営学部



『玉函山房輯佚書』

馬国翰 編 (江蘇廣陵古籍刻印社) 1990 / (文海出版社) 1967

私はこの書に出会って、中国古典の道に進もうと思いました。

中国の古い書物には、戦乱や自然災害のために失われたものが多くあります。しかし他の書物に引用されて、原本の一部が残ることもありました。それを佚文といいます。輯佚書は、佚文を引用書から集めた書物です。膨大な量の文献に目を通して佚文を抜き出し、再編修するのは一つの書物についてだけでも大変な作業ですが、この玉函山房輯佚書は、かつて存在していたすべての書物についてやったのですから、想像を絶する大作業だったはずですが、輯佚書のおかげで我々は、失われた書物をまとまって読むことができるだけでなく、現存する書物の過去の姿を知ることができます。

この書物の存在は私に中国古典学の科学的思考の徹底ぶりと、学としての層の厚さ、つまり中国古典学の魅力を感じさせてくれたのでした。



名図中国
124:M33:1~8
豊図中国
#122.08:4:1~16

木島 史雄
現代中国学部



『中村雅楽探偵全集』全5巻

戸板 康二 著 (創元推理文庫) 2007

私は芝居見物が好きです。と言うことで、芝居に縁のあるものを一冊。芝居好きが昂じると名優の芸談や見巧者の評論なども読みたくなるもの。戸板康二は最も有名な演劇評論家のひとりですが、実は江戸川乱歩に誘われて書き始めたという短編推理小説の方も一級品。主人公である歌舞伎界の重鎮・中村雅楽(もちろん架空の人物)が、梨園の内外におこる奇怪な事件を芝居心たっぷり、鮮やかに解決していきます。芝居の世界の楽屋裏を覗くような、ちょっとワクワクした感覚で、気楽に読める短編集です。随所にちりばめられた芝居の世界独特の約束事やキーワードが気になったら、歌舞伎事典や入門書を傍らに一読すれば、楽しさも二倍、三倍増でしょう。



豊図開架
913.6:
To26:1~5



塩山 正純
国際コミュニケーション学部



『商店街はなぜ滅びるのか』

新 雅史 著 (光文社新書) 2012

最近、若手の社会学者の新書での活躍が目立つ。学生諸君に紹介できる新書というレベルの読みやすい本で、しかも中身が充実しており、社会的な新しい現象を扱ったものということで、この書を取り上げた。著者は東大社会学上野ゼミ出身。ちなみに本人が著書をわかりやすく語るニコニコ動画の映像(郊外論の三浦展氏との対談)もあるのでこちらも参照されたい(<http://www.nicovideo.jp/watch/1349844427>)。豊橋もそうだが、地方はシャッター商店街状態で、各地のまちおこしの拠点として商店街は注目されつつある。商店街はまるで地域の伝統の場のように語られるが、実は20世紀になって、露天商から始めた零細小売商の救済から人為的に作られた、社会的包摂の装置としての近代的存在であることを著者は解き明かす。被災地ではいま社会的拠点となっている商店街を歴史的にリアルに描き出し、どのように維持可能性があるか世に問うたものである。



名図開架 673.7:A66
豊図開架 673.7:A66



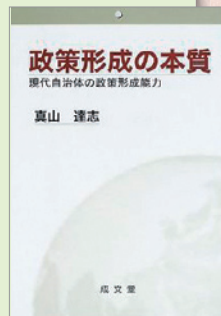
櫻村 愛子
文学部



『政策形成の本質』

真山 達志 著 (成文堂) 2001

政策とは何か、行政のどこが問題なのか、なぜ、市民は不満に思うのかといった点は、いずれも政策の背景にある問題をどのように捉えるかで鮮明になります。この問題発見能力をわかりやすく説明したものが本書です。本書は、自治体行政をテーマにしていますが、民間企業の社員に求められている能力にも直結する内容です。何が問題かがわからない人は、いつまでも誤った解決策しか提案できません。ところが、そのような人は、意外に多いように思われます。別言しますと、だからこそ問題発見能力を身に付けければ、社内、庁内で優れた人材であると評価されるわけです。レベルの高い内容を簡単な表現で記載されているため、ストレスなく一気に読み終えることができます。是非、ご一読を。



名図開架 318:Ma98
豊図開架 318:Ma98



野田 遊
地域政策学部

オススメへの推薦図書



『死の島』

福永 武彦 著 (新潮社) 1988

いまは池澤夏樹の父として知られる福永の、原爆をテーマとするこの小説に、二〇世紀長編小説の読み方——断片化しモザイク化する時間と、複数の登場人物の視点が複雑に絡み合い、ある時代状況を生きるひとびとを浮き彫りにする——を学び、そのあと一九世紀後半のドストエフスキー『悪霊』に、この世界ではどんな悪意に満ちたことでも起こりうる、ということを学んだ。いずれも語り口、登場人物とも一筋縄ではいかず、結局、この世界ではどんな悪いことも起こりうるけれど、その中でも人は生き続けようとする、という、希望を、学生時代の私は読み取っていたのだと思う。(昨年、震災直後のTVアニメ『魔法少女まどか☆マギカ』にその感覚を鮮烈に思い出していた。)

豊図書館 918.6:F79:10
918.6:F79:11
【福永武彦全集】



安 智史
短期大学部



(写真は文庫版)



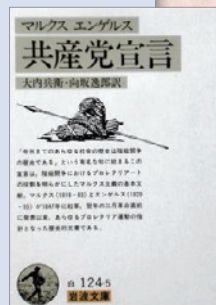
『共産党宣言』

マルクス、エンゲルス 著 (岩波文庫) 1951

大学生となり自分の見方を変えた本は、マルクス、エンゲルスの『共産党宣言』(岩波文庫)でした。唯物論や弁証法等の認識論やその論理に魅かれました。その後、マルクス主義はソ連の崩壊とともに色褪せた世界観となり、隅に追いやられましたが、最近では格差問題が広がる中で復権しつつあるようです。

ソ連建国はマルクス主義の壮大な実験となりましたが、その結果は皆さんご存知のことです。しかし、観念のウイルスとなったマルクス主義は絶滅せず種の保存に成功したようです。学生の皆さんには、物の見方や考え方に触れた書物を読んで欲しいと思います。

他人から知識を吸収する時間に対して、本から多様な知識を得るための時間は十分あります。是非、多くの本を手にとってください。



名図文庫 309.3:Ma59



林 隆一
会計大学院



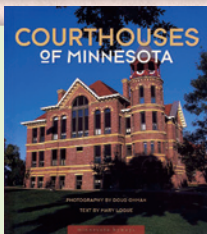
『Courthouses of Minnesota』

Doug Ohmman 著

(Minnesota Historical Society Press) 2006

アメリカの裁判所を見たことがありますか? 有名なのは1935年に建てられた現在のアメリカ連邦最高裁判所*でしょう。その雄姿を下記URLで一度ご覧下さい。しかし、アメリカの各地には、もっと素晴らしい裁判所建物(Courthouse)があるのです。紹介する本は、ミネソタ州の全域に散在する裁判所建物の写真集です。アメリカの州は、それぞれ数多くの郡(County)を持ち、郡ごとに裁判所建物を持っています。掲載されている裁判所建物は、個性的であり、優雅であり、秀美です。建物自体が、法と正義の威厳を物語っています。ぜひその姿を見て魅了され、そこからアメリカ法にも興味を持っていただければと思います。これも新しいアメリカ法入門ですね。

* <http://www.supremecourt.gov>



名図研究 526 : 029



伊藤 博文
法科大学院

Report

名古屋図書館の利用について

法学部3年 早河 弘毅

図書館の雰囲気がガラリと変わったのは、キャンパスが移転して驚いたことのひとつでした。キャレルデスクはもちろん、壁に設置してある照明もスタイリッシュになり、静かで清潔な印象を受ける、そんな空間になっていたからです。また、旧名古屋図書館では学生の駄弁り場のような感をまぬがれなかったのとは対照的に、メリハリのきいた場所になっていました。

内装も開放感いっぱいのつくりで、「利用したい」という気分にさせてくれます。1Fの新刊棚もとても見やすいうえに手に取りやすく、いい感じです。

なかでも僕がよくお世話になっているのが、1Fのディスカッションルームです。

僕は2012年春学期まで法学サークルの会長をしていました。サークル活動のなかで、特に定例会や勉強会のときこのディスカッションルームを使っていたのですが、非常に便利で使いやすいつ感じました。それだけでなく、現在僕が参加している法科大学院志望の愛大生によるゼミでも、予約ができるディスカッションルーム(1)を使っています。

ディスカッションルームはガラス張りで活動の様子は見えませんが、防音がしっかりしていて周りを気にせずに活動を行うこ

とができます。移動式のホワイトボードがあり、机も自由に動かすことができるので、ディスカッションにプレゼンテーション、また授業を行うことだってできます。

このように、キャンパスの移転に伴って図書館の役割も変容しているというのが僕の実感です。図書館というと、どうしても座学のための場所を連想すると思います。たしかに、それが図書館のメイン部分でもあり、学生としておろそかにできない要素ではあります。ただ、ディスカッションルームを使うことで、ゼミ活動やディスカッションのようなブレインストーミングに図書館を利用することもできます。これからの社会では、単純な情報処理能力や知識にとどまらず、創造性や問題解決能力が重視されていますので、企業や公務員に就職する場合だけでなく、法曹の道に進むにあたっても欠かせない素養を磨く場所であると言えます。

今や図書館は、これらを養う絶好の機関だと強く感じています。一人で集中したいときはもちろん、仲間と切磋琢磨したいときにも図書館の扉を叩いてみれば、みなさんにとって力になってくれることは間違いありません。



ルールを守って積極的に活用しよう!!

2012年4月 豊橋図書館をリニューアルしました!

文学部3年 平山 陽子

【開架室1階】

今年度から、豊橋図書館にラーニングcommonsスペースが設置されました。ラーニングcommonsとは、会話を禁じないグループで作業できる空間のことです。

図書館というと、静かであり、あまり話をしてはいけないという感覚が私自身にありました。そのため、学習のためであれば話したりしてよい空間というものが出て来ても驚きました。その空間が出来たことで、グループ発表の相談や意見交換などを、図書館の資料を使いながら出来るようになったのは斬新だと思います。特に、禁帯出の資料を使いたいときなどは、効果的に使えてよいと思います。

勾玉型の机を動かし、円形などの好きな形で使えることや、ホワイトボードなどを活用できる部分も、多人数で話し合いや資料を閲覧するためにはいいと思います。実際に、私もグループ発表についての話し合いで、ラーニングcommonsの場を利用しました。机を動かして円形で利用しまし

文学部・図書館情報学専攻の
有志による
「図書館好きの学生の会」
代表：平山 陽子さんのレポートです。

たが、以前に利用されていた四角形の机より周囲を見ながら話しやすくなり、楕円形の机より人との距離感が近く感じるため、話しやすい感覚がありました。

一方で、ラーニングcommonsは実際に活用されているのか、と思うときもあります。図書館を見ていると、ちらほら会議で使っている学生さんもいますが、以前と変わらない使い方をしている人も時折見かけます。周りに話を聞いてみると、「図書館は静かにしないと」という考えからあまり積極的に活用できずにいるようです。また、実際に使ってみても、話しづらい雰囲気のままであることも否定できません。少しずつラーニングcommonsの考えが広まって、活用のしやすい空間に近づいていけば、図書館の新たな一面を見出していけるのではないかと思います。



▲地域政策学部の荒川先生による、ラーニングcommonsスペースを利用した授業風景。学生同士の利用だけでなく、ゼミや少人数授業時の利用もできます。ぜひ、カウンターへお問い合わせください。



【開架室3階】

開架室の1階をラーニングcommonsスペースにしたことにより、3階をサイレントフロアに変更しました。静かに個人学習をする際には、こちらをご利用ください。



【図書館入口】

入退館ゲート横に、リフレッシュコーナーを設けました。こちらではペットボトルや水筒など、フタ付きの飲み物を飲むことができます。

リニューアルした豊橋図書館をどんどん利用してください!

シリーズ学会紹介

国際コミュニケーション学会

愛知大学国際コミュニケーション学部の設立に伴い、1998年より発足し、既に14年の歴史を歩んでいた国際コミュニケーション学会は、「国際」・「コミュニケーション」をキーワードとして関連諸学問を包括する学術的組織である。

学部構成は、言語学を中心とする学科群や、比較文化を中心とする学科群に大きく分けられるので、本学会構成員も同様の専門領域をカバーしている。一見幅が広すぎるようであるが、その豊かさがまさにメリットである。活発な学会活動が営まれ、それらの内容や特色は、次のようにまとめられる。

第一、学会誌『文明21』の発行である。正会員や準会員が投稿論文などを発表する場となっており、およそ年に2回の刊行がなされる。研究会や国際交流プログラム等の学会活動の記録も含め、時にはテーマ別の「特集」を組み立てる構成になる場合もある。国内外の学会、研究機関や研究者との刊行物交換も行われている。

第二、学術講演会、研究会、ワークショップ、国際シンポジウム等、様々な形で専門性の高い学術交流事業を主催して

いる。これらによって、構成員の研究発表や共同研究を含め、諸外国の研究者や国内の研究者を招聘した国際的な情報交換や学術集会在数多くの成果を果らせている。その一例として、これまでに国際交流プログラムは58回にわたって実施されてきた。

第三、学部生や国際コミュニケーション研究科の大学院生への様々なサービスの提供である。学科誌の無料配布のほか、学部生のために、卒業研究指導教員の推薦に基づいて、学科会議や教授会の議を経て、「学会賞」と「努力賞」を授与するほか、日本の伝統文化を理解するための歌舞伎鑑賞のプログラムなども実施してきた。卒業研究論集も後輩の参考となっている。

学会誌『文明21』の原稿募集や特集体制および専門性のさらなるレベルアップなど、国際コミュニケーション学会の抱える課題は山積し、様々な実践や工夫が必要とされていますが、日々改善していくことはむろん可能であろう。

(文責：国際コミュニケーション学会幹事 周星)

地域政策学センター Center for Regional Policy Studies (CRPS)

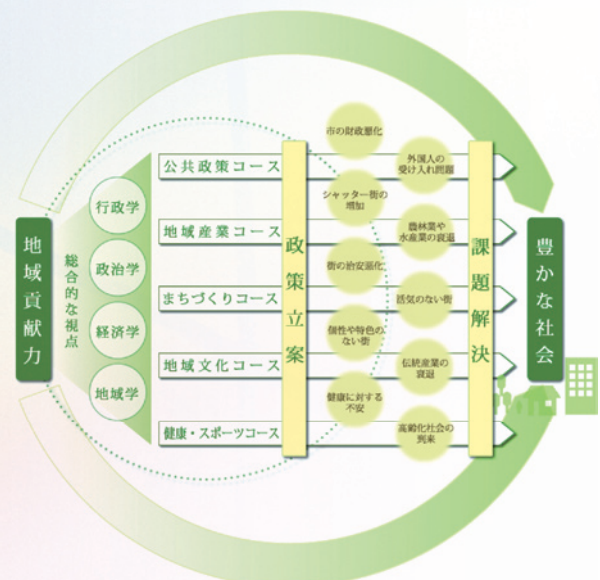
「地域を見つめ 地域を活かす」を理念に「地域貢献力」を育てる地域政策学部

日本中のどんなまちでも何らかの問題を抱えています。それらを解決するには、1つの学問分野にとらわれず、さまざまな側面からアプローチする総合的な視点が必要となっています。また、住民の視点で問題を分析し、多くの人とともに解決に向けて行動し、未来に向けた政策立案をする力も重要になっています。特に「地方の時代」のスローガンのもとで国から地方への権限委譲が検討されている今日、地域に貢献するだけでなく未来を創造する「地域貢献力」を持ったリーダーの育成が急務となっています。

以上の背景と社会的要請にこたえて、2011年4月、愛知大学豊橋キャンパスに、「地域を見つめ 地域を活かす」を理念とする地域政策学部を設置しました。地域政策学部は、法学分野と経済学分野をベースに、公共政策、地域産業、まちづくり、地域文化、健康・スポーツ5つのコースを通して地域の未来を創造する人材を育てる学部です。また、「アクション・リサーチ」つまり問題の分析・検証より前にまず行動を起こし、その結果を分析して次の行動を修正し、より良い政策を導き出すという実践的な研究スタイルを重視しています。さらに、本学が創立から60年間で培ったネットワークを活かし、地域の自治体や団体、企業と連携した授業も行っています。地域政策学部の名称は、高崎経済大学に次いで全国で二番目です。

地域連携を重視した学術研究を行い地域政策学の確立に寄与する地域政策学センター

地域政策学部の設置に合わせて、教授陣が一体となって研究活動を推進していく拠点とすべく、「地域政策学センター」を設置しました(センター員は地域政策学部専任教員)。他学部が保有している学会と専門的な研究所を合体したものとイメージしていただければと思います。実質的な活動は2012年4



月1日からですが、準備室段階から近隣自治体からの委託事業や連携事業に対応してきました。

地域政策学センターの目的は、地域交流・地域連携活動の実践を重視した地域政策に関する学術研究を行い、地域政策学の確立と発展に寄与することです。このように定めた理由は、第一に、地域政策に関する教育研究は、「理論と現実の乖離」を生起させない形で進められねばならないという考えに基づいています。また、地域政策に関する教育研究のキーワードが地域主権につながる住民の主体性であること、そして地域政策学が学問体系として確立途上にあることを表現したものです。

以上の目的を達成するために、運営組織として研究、教育、実践の3つの部門(委員会)を設置し、各部門の責任者として副センター長をあてています。しかし、実際の研究活動や事業は、3部門の横断的活動としてプロジェクト事業として展開しています。研究部門では、地域政策学に関する自主研究、共同研究の企画、紀要(『地域政策学ジャーナル』)の編集・発行、講演会・シンポジウム開催、共催等の企画、運営を担当しています。教育部門では、地域政策学教育を推進する事業(資料発行、図書出版)、学生による地域貢献や研究活動の企画及び運営、センター研究員受け入れ事業を担当しています。実践部門では、受託調査研究事業、共同調査研究事業、奨学寄付事業、講師・委員派遣事業、インターンシップ実践及びボランティア活動事業の実践を担当しています。

当センターには、地域政策に関する学術研究を志す方を「センター研究員」として受け入れる制度(年2回募集、資格2年間)があります。研究費の支給はありませんが、本センターが企画する共同研究や地域連携活動への参画には一定の補助を行っています。『地域政策学ジャーナル』にも投稿することができます。地域政策学部専任教員(=センター員)が指導教員となります。地方自治体等の研修制度による研修者をセンター研究員として受け入れています(現在:豊橋市職員1名)。

今後、地域政策に関わる人々をはじめ、幅広い組織(企業・自治体・NPOなど)や大学、研究所等との積極的な協働関係を築く中で、一歩ずつ前進していく所存です。皆様方には、ご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(文責:地域政策学センター長 新井野洋一)

地域政策学センターの連絡先と役員体

(所在地) 愛知大学豊橋キャンパス 研究棟 2階
 (事務) 河合博子
 (直通電話 & FAX) 0532-47-4586 (内線電話) 1856
 センター顧問(学部長) 渡辺 和敏 教授
 センター長 新井野 洋一 教授
 副センター長(実践部門) 戸田 敏行 教授
 副センター長(教育部門) 鈴木 誠 教授
 副センター長(研究部門) 竹田 聡 准教授

Data

■帯出冊数(2008年度~2012年度)

区分	学部等	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度 (9/30まで)
学部生	法学部	14,653	13,637	10,052	9,592	5,220
	経済学部	5,736	4,701	5,348	4,448	2,714
	経営学部	11,303	13,040	12,627	10,023	4,605
	現代中国学部	9,201	8,487	7,548	5,695	2,011
	国際コミュニケーション学部	12,960	12,675	12,835	12,138	4,785
	文学部	23,000	23,921	21,504	21,571	10,123
	地域政策学部	-	-	-	817	893
院生	短大	3,326	4,073	4,181	3,275	990
	科目等履修生	406	516	409	219	226
	経済学研究科(修士)	553	490	87	139	49
	経営研究科(修士)	977	1,191	850	415	104
	中国研究科(修士)	1,048	1,234	1,239	706	627
	国際コミュ研究科(修士)	504	643	728	740	309
	文学研究科(修士)	536	587	563	519	349
	研究生(修士)	48	50	58	231	39
	経営研究科(博士)	271	294	197	95	180
	中国研究科(博士)	2,091	1,464	1,195	915	408
	文学研究科(博士)	209	132	290	227	147
研究生(博士)	66	0	63	0	0	
大学院科目等履修生	188	64	9	52	6	
専門職大学院	法科大学院	5,516	4,196	3,883	2,823	974
	法科大学院(研究生)	851	933	869	824	424
	会計大学院	2,896	2,232	1,610	1,217	728
	会計大学院(研究生)	67	194	256	147	30
その他(教職員、同窓生、研究員、オープンカレッジ生など)		33,552	35,848	33,127	25,488	9,703
合計		129,552	130,086	119,119	102,097	45,644

Data

■名古屋図書館 来館者数

区分	学部等	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度						合計
						4月	5月	6月	7月	8月	9月	
学部生	法学部					8,828	8,599	8,955	16,556	1,402	4,713	49,053
	経済学部					5,801	5,459	5,436	8,844	451	2,927	28,918
	経営学部					6,989	7,527	8,131	14,511	982	4,082	42,222
	現代中国学部					2,141	1,986	2,410	3,889	311	1,509	12,246
	国際コミュニケーション学部					4,846	4,880	4,791	7,036	406	2,621	24,580
	文学部					155	148	127	131	78	82	721
	地域政策学部					18	16	12	11	15	15	87
	短期大学部					20	18	13	27	1	2	81
大学院生	法学研究科(修士)	333,154	310,948	327,588	317,505	0	0	0	0	0	0	0
	経済学研究科(修士)					17	20	23	22	14	27	123
	経営研究科(修士)					15	3	3	5	2	4	32
	中国研究科(修士)					30	28	35	22	10	10	135
	国際コミュ研究科(修士)					26	25	25	20	2	9	107
	文学研究科(修士)					1	1	1	2	0	0	5
	研究生(修士)					1	1	5	2	0	1	10
	法学研究科(博士)					0	0	0	0	0	0	0
	経済学研究科(博士)					0	0	0	0	0	0	0
	経営研究科(博士)					19	38	22	12	3	1	95
	中国研究科(博士)					183	180	83	65	15	31	557
	文学研究科(博士)					0	0	0	0	0	0	0
	研究生(博士)					0	0	0	0	0	0	0
大学院科目等履修生	0	0	1	3	0	7	11					
専門職大学院	法科大学院					4	10	9	16	33	55	127
	法科大学院(研究生)					2	4	1	3	2	0	12
	会計大学院					8	5	0	5	0	5	23
	会計大学院(研究生)					0	0	0	0	0	0	0
その他(教職員、同窓生、研究員など)					2,408	2,151	2,261	2,190	4,659	1,940	14,535	
合計					31,512	31,099	32,344	53,372	8,386	18,041	174,754	

■豊橋図書館 来館者数

区分	学部等	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度						合計
						4月	5月	6月	7月	8月	9月	
学部生	法学部					5	10	9	26	10	15	75
	経済学部					432	269	307	443	139	306	1,896
	経営学部					9	10	8	15	16	18	76
	現代中国学部					2	2	1	4	9	3	21
	国際コミュニケーション学部					237	195	200	313	130	223	1,298
	文学部					6,982	8,234	8,746	12,717	1,385	5,554	43,618
	地域政策学部					1,839	1,893	2,066	4,080	174	1,253	11,305
	短期大学部					585	849	654	1,000	52	237	3,377
大学院生	法学研究科(修士)	360,849	356,602	350,181	257,207	0	0	0	0	0	0	0
	経済学研究科(修士)					1	0	0	1	0	0	2
	経営研究科(修士)					0	0	0	0	0	0	0
	中国研究科(修士)					2	0	0	0	0	0	2
	国際コミュ研究科(修士)					4	4	10	11	7	8	44
	文学研究科(修士)					100	111	94	71	26	47	449
	研究生(修士)					10	20	12	22	12	6	82
	法学研究科(博士)					0	0	0	0	0	0	0
	経済学研究科(博士)					0	0	0	0	0	0	0
	経営研究科(博士)					0	0	0	0	0	0	0
	中国研究科(博士)					1	0	0	0	1	1	3
	文学研究科(博士)					11	11	13	8	4	8	55
	研究生(博士)					0	0	0	0	0	0	0
大学院科目等履修生	0	10	8	10	3	2	33					
専門職大学院	法科大学院					0	0	0	0	0	0	0
	法科大学院(研究生)					0	0	0	1	0	0	1
	会計大学院					0	0	0	0	0	0	0
	会計大学院(研究生)					0	0	0	0	0	0	0
その他(教職員、同窓生、研究員など)					1,716	1,880	1,965	1,762	1,005	1,446	9,774	
合計					11,936	13,498	14,093	20,484	2,973	9,127	72,111	

2012年12月15日発行 No.39



編集・発行 愛知大学図書館

■名古屋図書館 〒453-8777 名古屋市中村区平池町四丁目 60-6 ☎(052) 564-6115
 ■豊橋図書館 〒441-8522 豊橋市町畑町 1-1 ☎(0532) 47-4181
 ■車道図書館 〒461-8641 名古屋市長区筒井二丁目 10-31 ☎(052) 937-8116

<http://library.aichi-u.ac.jp>